

ようこそ畑へ

2010年9月27日(月)・30日(木)

先週、お届けしたかぼちゃはいかがだったでしょうか。伊達家では天ぷらや煮物にして食べています。かぼちゃは毎年作っていますが、今年は特においしいように感じます。「蒸しただけで何もつけなくてもおいしかったよ。」と教えてくださった方もいました。

このかぼちゃは東京南瓜という品種で、豊滝で野菜を作りはじめた2005年から毎年種採りを続けてきました。毎年、いろいろと試行錯誤しながら、種まきの時期、苗を畑に植える時の苗の大きさなど工夫を重ねてきました。

少し具体的な話をすると、一般的には、かぼちゃは、ビニールの鉢で苗を1ヶ月ほど育て、本葉が4、5枚になったものを植えることとされています。

今年、伊達家では、種まきを半月ほど遅らせて、苗を育てる期間を短くして、本葉が2枚になった段階で畑に植えました。

一昨年、本葉が5枚ほどになったズッキーニの苗を植える時、ビニールの鉢の底にある穴から土の中に伸びている根をはがすのが良くないのではないか、愛子が気付きました。そこで、昨年は、種まきの時期をこれまでどおりのものと半月ほど遅らせたものの2段階に分けて、本葉2枚の苗と5枚の苗を同じ日に植えて、その後の生育を比較したところ、種まきが遅い本葉2枚の苗の方がグングン成長しました。

昨年のズッキーニの結果を受けて、今年は同じウリ科の野菜であるかぼちゃやズッキーニでも種まきを遅らせて、本葉2枚の苗を植えることにしました。結果は上々で、ズッキーニもきゅうりもかぼ

ちゃもよく成長してくれました。

どうも、人間が肥料や農薬を投入しない自然栽培においては、肥料や農薬を投入することを前提とする栽培法とは違う部分があるようです。

もちろん、これまでの栽培法の中にも、学ぶべき部分があることは言うまでもありませんが、野菜を観察しながら、夫婦でよく話し合って、ひとつひとつ答えを見つけていきたいと思います。

伊達家の食卓

【チンゲンサイ】

大きな葉と軸のシャキシャキ感が特徴の中国野菜です。炒めものや煮びたし（醤油でもめんつゆでもOK）、クリーム煮などでいただくとおいしいです。

春に種を播いたものは生育が悪く、お届けできませんでしたが、8月に種を播いたものは良く育っています。

【メーキン】（自家採種）

煮くずれしにくいじゃがいもです。肉じゃが、カレー、シチューなどに向いています。

【春菊】（自家採種）

ごま和えや鍋にどうぞ。